

1. 評価結果概要表

作成日 2009年1月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2893000147
法人名	株式会社カームネスライフ
事業所名	グループホーム ここから尼崎小田
所在地	〒661-0966 兵庫県尼崎市西川2丁目37-3 (電話) 06-6498-3920

評価機関名	NPO法人ナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2-27-19		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成20年 11月 21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 12.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造陸屋根 造り 地下1階地上3階建ての 2階 ~ 3階部分
------	------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	管理費24,000 円	
敷金	有(円) 無	冷暖房費 6月-9月、11月-3月	2,500円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,00 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月 21日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	10 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人中央会 尼崎中央病院 小林歯科
---------	---------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR尼崎駅北東約1kmの市街地に在る寮をリフォームして開設されたグループホームである。周辺には大きな病院や大規模商業施設、昔からの懐かしい商店街があり、きわめて生活に便利な場所に立地している反面、幹線道路から一本東へ入った閑静な住宅地に佇む日当たりの良い綺麗な建物である。今年の三月にオープンしたばかりで今回初めての外部評価を受けるとともに、管理者職員があらたな気持ちで前向きに取り組んでいく姿勢が強く感じられる。理念を大切に実践にかしなげら、さらなるサービスの質の向上に一丸となって取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 第三者4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 今回の評価をもとにして、職員全員で再度見直して改善計画を立て、出来ることからすぐにでも取り組んでいく姿勢をもっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は開設後3回開催されてはいる。報告だけに留まらず、参加者から提案を受け双方向関係を徐々に築きつつある。自ら課題を提起し、意見を求め自然に地域に溶け込んで、さらなるサービスの質の向上に繋げることが期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	玄関に意見箱を設置するだけでなく家族等に意見、不満、苦情を気軽に表せる機会づくりをこころがけ、対応だけでなく発生要因を探り質の向上をめざしていくことが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目: 外第三者3) 地域の行事等には積極的に参加しているが地域に開かれた事業所として、共に暮らす地域の一員として双方向関係を築いていく努力が求められる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者の尊厳と自立を謳った法人の理念を1階事務所に掲げている。地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し「地域密着・地域生活継続」を意識し、現理念を更にほりさげて事業所と地域の関係強化を謳った理念への変更を検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内とスタッフルームに理念を掲示し、朝礼やホーム会議の際に唱和している。会議の際に日常のケアについて振り返り、理念を共有することで質の向上に繋げる努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議での情報をもとに、地域の盆踊りや祭りに積極的に参加しているが、近隣とは回覧板を届ける人とたまに顔を合わす程度で、馴染みの関係を築き上げるまで至っていない。	○	共に暮らす地域住民の一員として、互いに支えあうような双方向関係を築きあげる為に、グループホームの運営で培った認知症高齢者介護のノウハウを生かし、地域で必要とされる活動や役割(例えば、認知症に関する相談に応ずるなど)を担っていけることが望まれる。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム会議の際に第三者評価の意義について伝えている。今回がはじめての評価であり、今後評価結果を基本にして改善計画を作成し、改善に向けて具体案の検討や実践に取り組んでいく姿勢を持っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された提案等は出来るだけ早く検討して、日々の運営に取り入れる努力をしている。尼崎は史跡の多い町との地域の特性を教示され、近くの史跡めぐりを取り入れ実行している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないこと等、その都度市介護保険課に電話で問い合わせるなど、連携を密にして、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回生活便りを発行している。又、2～3ヶ月に1度来訪する家族には、別途手紙にて毎月利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理について知らせているが、職員の異動等の連絡が不足している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり職員や事業所側から積極的に声かけし、出された意見や要望に対して反映させている。家族会を設けたり運営推進会議等、外部者に対して安心して意見等を表せる機会づくりに努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係を重視し、異動や離職を最小限に抑える努力や工夫の跡が見られるが、十分に成果を出すところまでには至っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度や経験に応じた社内研修や、外部研修受講について、年間計画を策定して取り組んでいる。	○	運営者・管理者は、介護については明るく前向きな職員の姿勢が、利用者の安心と信頼に結びつくことを自覚して、資格取得のために援助するなど、職員のやる気を引き出すような方策を考えられたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に積極的に参加し、交流を通じてサービスの質の向上に努めている。職員も交代で2ヶ月に一度勉強会に参加している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の視点で対応し、納得できるよう説明したり体験入居の利用を通して、徐々に馴染みながらの利用が出来るように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の能力を無理をせず引き出しながら喜怒哀楽を共にし、お互いに支えあう関係をつくりあげる努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や関係者からの情報をもとに、利用者の意向を尊重し、安定した生活を継続できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族や本人から思いや意向を聞き、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成しているが、聞き取りは十分ではなくご家族参加のカンファレンス等行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行なうだけでなく、変化に応じて臨機応変に介護計画の見直しを行なっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等柔軟に対応し手要望に沿えるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関だけでなく、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診を支援している。薬や受診内容に変化があれば家族にその都度報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のあり方、事業所の対応について話し合いの機会を持わず対応方針の共有を図れていない。	○	本人、家族等、関係者を交え出来るだけ早期から話し合いの機会を作り、関係者全体の方針の統一を図っていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時や会議で、プライバシー保護や守秘義務の徹底を図り、記録類も管理徹底しているが、親しさから職員の言葉遣いが不適切なときもある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務の流れは作っているが、利用者のペースに沿って柔軟に対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好にあった食事の提供を考えメニューを工夫して、朝食はパン食と和食を用意している。盛り付けや後片付けは一緒にしている。近くの商業施設を利用し食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴への心配りを行ないながら、本人や家族から習慣や好みをよく聞いて個別にあった入浴支援を行なっているが、夜間入浴希望などには対応できていない。職員のローテーションを工夫して利用者の希望に添えるよう努められたい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の隠れた力を引き出し張り合いのある生活を支援しようと努力しているが、十分でない。職員全員は、利用者を人生の先輩としてとらえ、教えてもらいながら支援していくとの姿勢が大切といえる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として近くの馴染みの店に出向いたり散歩をしたり、一人一人の気分や要望に応じて外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵をかけないで夜間のみ施錠している。外出しそうな気配を感じたら同行したり、さりげなく声かけをしたり安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や自治会、運営推進会議で積極的に呼びかけて、協力体制を築いて年2回実施している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を、チェック表に毎日記載し、情報を職員が共有できるようにしている。食べもの、飲み物の嗜好をチェックし献立に反映させている。今後のため糖尿病食の検討も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かい家庭として生活の場を提供している。季節感や生活感に対する工夫と配慮がなされている。	○	2階・3階の居間・食堂などの共用スペースの他、1階の空きスペースを、地域の自治会や幼稚園に働きかけて、積極的な来訪を促すなど、利用者と地域の人との交流の場として活用することを提案したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、一人一人の想いのこもった小物などが持ち込まれて、利用者の過去の生活が感じられる。		